

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

4/5号

第6節 アビスパ福岡 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鑄造

4/5 13:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : アビスパ福岡 2013 J2 15勝11分16敗 勝ち点56:第14位

1982年に静岡県藤枝市で結成された『中央防犯サッカー部』は静岡県中西部リーグ3部からスタートして創部からわずか10年で「日本リーグ(JSL)2部」にたどりつく。Jリーグ参入を念頭に『藤枝ブルックス』となった1994年はセレッソ大阪や柏レイソルと熾烈な上位争いを展開(24勝6敗で3位)。翌年に福岡に移転し『福岡ブルックス』としてJFL優勝、J参入を果たすと同時『アビスパ福岡』となる。参入後は毎年苦戦が続いたが、1998年のJ2創設時に行われた『J1参入決定戦』でもしぶとく生き残り、アビスパのグッズが「落ちないお守り」として受験生から注目されるまでになった。しかし、ついに2001年シーズンを総合15位で終えてJ2降格。以後、2度のJ1昇格とJ2降格を経験する。最高位は2000年のJ1・総合12位。(吉田鑄造)

3/22にホームで首位・湘南に敗れて連敗を喫した後、前節3/30アウェイ愛媛戦ではドローに終わったF C 岐阜。試合を優位に運びながら、フィニッシュの精度や工夫が足りず無得点だったのは反省材料だが、守備陣の踏ん張りで無失点に抑えた点は、(2試合連続で3失点していたことを考えれば)好材料だろう。(おそらくは)中位の実力を持つ愛媛に勝てなかったのは非常に残念だが、しかし逆に考えれば、その相手にアウェイで負けなかった、勝ち点1を持って帰ることが出来たと前向きに捉えたい。

これで開幕から1ヶ月、5戦を終えてのF C 岐阜の成績は2勝2敗1分。開幕2連勝で単独首位に立つことができたが、今は12位に後退してしまった。開幕前に大きく膨らんだ今季の活躍への期待と比べると、いささか期待はずれと感じているF C 岐阜サポ諸兄も多いだろう。ただ昨年はこの時点で0勝2分3敗しかも無得点で最下位(22位)だったことを考えれば、「最高の」とは言えないが)まずまずの滑り出しと考えると良いのではないだろうか。また、12位とはいえ6位までが勝ち点1差、2位までが勝ち点3差にいる状況、逆に下を見れば19位までもが勝ち点3差にひしめいている状況だ。まだまだ、いくらでも上昇の機会はあるし、下位に低迷する危険性もある(昨シーズン終了時に6位となった長崎は第5節終了時点で20位だったし、最下位となった鳥取はこの時点で2位だった事実を忘れてはいけない)。今後も1試合1試合を大事に戦っていくしかない。

さて、4月に入って最初の対戦相手は現在9位のアビスパ福岡。3/22第4節には磐田と3-3の乱打戦をドローに持ち込み、前節3/30には後半ロスタイムの決勝ゴールで横浜F C戦を破るなど、勢いのあるチームだ。#9 プノセバッチを1トップとして、#10 城後寿や#11 坂田大輔、#16 石津大介といった2列目からの選手が顔を出す前半、そして(前節も決勝ゴールを決めた)#7 平井将生がスーパーサブとして投入される後半という戦術で、第2節から4戦負けなし。プシュニク監督体制2年目となり、昨年からの積み上げでもあるチームだけに、油断出来ない相手だ。

一方のF C 岐阜は、#16 スティッペが湘南戦で負傷したこともあり、前節は#27 太田圭輔がスタメンに入るなど、少しずつ選手を入れ替えている。最適なメンバーを追求し、また選手間のポジション争いも活性化させているラモス監督。今節は誰をどのポジションに起用するのか、その采配にも注目したいし、監督の期待に応えた選手が大暴れするところを是非とも見たいものだ。

これまでの両チームの対戦は3勝2分7敗、10得点15失点という通算成績だ。しかし何故かホーム戦の方が分が悪く、0勝1分5敗、1得点11失点。昨年7/20の対戦でも0-2で敗戦しているが、ここは「僕らのホーム」長良川だ。「やはり今年のF C 岐阜は違う」と思わせるためにも、今節はしっかりと勝利を掴み取りたいところだ。今日は花冷えの天候が予想されているが、僕らの声援の熱気で寒さを吹き飛ばし、スタジアムを後にする時には、満開の桜の下で勝利の喜びをかみ締めよう。(ささたく)

2014J2

■順位表 ■第5節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	15p	+10	13	3	H●
2	磐田	10p	+6	12	6	
3	松本	10p	+5	10	5	
4	長崎	10p	+4	9	5	
5	群馬	9p	-1	5	6	
6	栃木	8p	+3	6	3	
7	札幌	8p	+2	6	4	
	京都	8p	+2	6	4	
9	福岡	8p	+1	7	6	
10	横浜FC	8p	+1	5	4	
	大分	8p	+1	5	4	
12	岐阜	7p	+2	9	7	--- ---
13	千葉	7p	+1	6	5	
14	水戸	7p	+1	4	3	
15	愛媛	6p	-1	3	4	A△
16	北九州	6p	-4	4	8	
17	山形	5p	0	5	5	A●
18	岡山	5p	-1	3	4	
19	熊本	4p	-5	4	9	
20	富山	1p	-7	2	9	HO
21	東京V	1p	-8	4	12	
22	讃岐	0p	-12	3	15	HO

次回HomeGame

第8節 栃木SC戦

4/20(日) 13:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

心の花が咲く..

何も無い店だけど...

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第4節】岐阜 2-3 湘南

● 2-3 というスコア以上に内容で完敗…。高い位置からプレスかけられて奪われたら、スピードに乗ったショートカウンターで一気に攻められる……。3失点目はそれが顕著に表れたかと。今日は水野のところでボールロストする事が多かったかな。でも試合後のラモス監督の評価は良かった。サポの視点と監督との視点の違い。こういうのがあるからこそサッカーって視てて楽しいのかも。

湘南は最後まで走力が落ちていなかった。J2は走れないと大変なのを実感。ベテランが多いウチは不安な要素が多いのも事実。

更にスティッペのケガも痛い…。あの感じだと2ヶ月くらいはかかりそうな気がする。ナザリトの2ゴールは個人能力の高さを実証。シーズン最後まで岐阜にいるか心配になってきた(苦笑)。なんとかして守っていただきたいものである。

(岐阜の誇り)

● やっぱ昨年J1・今季3連勝無敗は伊達じゃない。湘南は強かった。選手の補強があったとしても、いや普通なら降格して戦力は低下するものなんだけど、こんなチームが昨年では6勝しかできなかった(ちなみに昨年のFC岐阜でも9勝だ)ってんだから。覚悟はしてたけど、僕らの“目標”はまだまだ先だな…と思わざるを得なかった。

チームの成熟度の違いとも言えるけれど、湘南の高い位置でのプレス、奪った後の攻撃の素早さ、そして何度も続く波状攻撃は迫力があつた。その迫力(プレーや判断の速さと言っても良いかも)で、岐阜の選手たちにはミスが目立ったように思える。1失点目は、ゴール前でボールをクリアして、攻撃に切り替えようと押し上げた隙を突かれて#9ウェリントンに決められてしまったし、2失点目もゴールポストの跳ね返りへの反応が遅れて#6永木をフリーにしてしまった。3失点目は、試合終盤の選手交代で気が緩んだ(?)ところを見事な左右の連携で崩された。

残念ながら試合内容では「力負け」したと思うが、3試合無失点を誇っていた湘南から2点を奪って意地を見せることが出来た(そして7,222人の観客を沸かせることが出来た)のは良かったと思う。やっぱりホーム戦なのに無得点で敗戦する訳にはいかない。2本とも#28水野泰輔のスルーパスを、DFラインの裏を抜け出した#9ナザリトが決めてのゴール。もう少し早い時間帯で2点目が決まっていたら、試合展開も分からなくなってたよなあ…残念。とはいえ、まだ若い(泰輔は20歳、ナザリトは23歳)2人の潜在能力を大いに示してくれた。これからも経験と連携を深めてピッチを暴れ回って欲しい、頼むよ!(ささたく)

● よかったのは点が決まったことだけ。この試合を大雑把にまとめるとそんな感じ。完敗だった。湘南の方がやりたいようにやっていたように見えた。前線のウェリントン、永木、武富らの個人能力も高かったけど、組織としてのまとまりもウチより数段上をいった。まあ、そのあたりが昨季J1でもまれた経験、そして同じ監督の下3年間積んできた実績ということか。こちらは発展途上、新監督の腕の見せ所と、今後に期待しておこう。

手腕と言えば、前半でスパッと難波を見切って三都主に替えたのには驚いたし、意識の高さも感じた。ちょっと違うなって。替える選手がいるということも大きな要素ではあるけれども。劇的な結果が出たわけではないが、サブの選手にも見る側にも緊張や期待をもたらしてくれるような気がする。

それにしても、サイドを中心によくやられてたね(苦笑)そして、セカンドボールを始め接点でことごとく負けてたような印象もある。いかに好調な首位が相手とはいえ、あんな内容では拍手はできなかった。特に水野。2アシストはあったけど、あれくらいは普通にできる選手。ボランチというポジションであの出来では戦術も戦略もあったものではない。彼

なら中盤の指揮を取ってゴールも決めることができるはず。これからは物足りないと思ったら、どしどし叱咤激励して欲しいと思う。試合後の監督コメントを読んで、ますますその思いを強くした。

それから、とても残念なのがハルクの負傷交代。前半早々のファーストシュート。テクニクのある彼には信じられないようなイージーミスで先制点を逃したけど、富山戦でも同じようなことがあつたし、やはり体調が万全ではなかったのかな?直接の故障箇所は大腿部の肉離れだそうだけど、手の故障とかが何かしら影響していたのかしれない。どこか悪いところがあると、そこをかばってバランスを崩すこともある。とにかく、一日でも早い好漢ハルクの復帰を願う。

2-3という僅差の試合の割には、少々辛口な感想になってしまった。それでも、得点が決まったという事実はとてもイイことだ。いや、冒頭の文章とは正反対の書き方だけど、実際これで0-3だったら目も当てられない。それは昨季まで何度も見てきた光景だ。7千人を超えるお客さんが集まったスタジアムで、ホームチームが決めた時の歓声はとんでもなく興奮する。感激も倍増だ。0-0の引き分けでも内容があつて満足のできる試合もあるけれど、やっぱり応援するチームがゴールを決めるのは最高だ。次節の福岡戦でもゴールを決めて、今度はそれを勝利にしっかり結びつけてほしい。また、バンザイ四唱やりたいです!(ぐん)

● 「視ちゃおれん……」な内容で「視れるレベル」の結果になった試合、かな。湘南がやりたいサッカーを綺麗に“させちゃった”というか。

ぼくは山形には行かなかつたので讃岐戦、富山戦との比較になるんだけど、まわりの観戦仲間との共通の感想として、ナザリトと難波の距離が気になった。もっと近い位置でプレーしていた(そしてその距離が富山戦の先制点とかになった)と思うんだけど……。この「1トップ(ナザリト)・2シャドー(難波&スティッペ)」みたいな布陣はてっきりラモス監督の指示だと思ったんだけど、後半開始での難波の交代や試合後の監督の記者会見を読むとそうではなかったみたい。

そして、水野。2アシストというチャンスの起点だった(1点目のスルーパスには技術とセンスの高さを感じた)けど、同時にピンチの起点でもあり続けた。あの位置であんな軽いプレーでボールを奪われたら、そりゃショートカウンターが自家菜籠中の湘南攻撃陣にタッコタコに殴られてしまう。右サイドバックが不安定なのも心配どころ。「突けば容易に孔が開く」ところを2ヶ所も抱えていると、2枚のセンターバックへの負荷はいかばかりか。木谷の奮迅の活躍が岐阜の守備を支えてくれている。

負傷交代となったスティッペの状態も心配だ。選手層の厚さは昨年の比じゃないからまだ致命的とまではいかないけど、ケガ人の多さは気になるところ。

ナザリトの見事なライン裏への抜け出しと決定力で1点差の試合になった。でも、J1の試合をテレビで視ていると「このチーム、ナザリト欲しいだろうなあ……」と思ってしまうようなところが複数ある。どことは言わないけれど(苦笑)。ラモス監督が開幕戦だったかの記者会見で「夏(の移籍期間)にはいなくなるんじゃないかと心配」と話していたことは現実的な心配ごとになるし、そして現在の岐阜は「ナザリトがいなくなったら、どうなっちゃうの?」という攻撃陣の状況。5試合を経過して、そろそろ『チームで崩してチャンスを作りモノにする』シーンが視たいところ。(吉田 Casting)

【第5節】愛媛 0-0 岐阜

●スタジアムがある砥部運動公園の桜は今を盛りと咲き誇っていたのだけれど、残念ながら今年もウチは花も咲かせず、実も取れずという結果。まあ、なんとか勝ち点1が取れて芽は出せたかな？というところか。

開場のニンジニア・スタジアム、略してニンスタは平成27年だかの国体に向けての改修工事もほぼ終わり、昨年までの状況とは一変。バクスタの傾斜はいかにも観戦しやすそうだし、ビジョンも大きくきれいになってた。表に出ないトコではトイレも洋式で広くて清潔でうらやましい。ただ、ゴール裏にもっと傾斜があつたら言うことないんだけど。なんかもったいない気がする。

曇り空に覆われていたけれど雨の心配はなく、観戦だけでは肌寒いかもかもしれないが選手はもちろん、声を出して応援する自分にとっては絶好のコンディション。そのおかげもあってか、キックオフから優位に試合を進めていたように見えた。が、肝心のシュートには遠く、初めてのシュートも30分は過ぎたあたり。泰輔がボールを拾った時には昨季のホーム・北九州戦が脳裏をよぎったんだけどね。それでも、そのそのシュートが口火となって徐々に決定機も増えだした。愛媛の最初のシュートには、河原だったかな？一瞬ヒヤツとしたけど、そこは百戦錬磨の能活がカンタンにキャッチ。読んでたのか、そこへ蹴らせたのか。どっちかだろうというくらいの余裕が感じられた。これならイケそうという感覚を残したまま始まった後半、だったんだが……。ナザリトのアノ2本が両方とも決まらないんじゃないかたない。1本目は「なんでネットが揺れないの？」と思ったし、2本目なんかボクの両手はすでに空に向かって突き上げられていたワケですよ。相手のキーパーがかぶったのまで見えたから、完全に決まったと確信してたのに……。ナザは2点損したね。終盤は攻め疲れ？からか、愛媛に攻め込まれ「あわや……」のシーンもあったけど、それを防いでくれたのが能活。そして木谷。マン・オブ・ザ・マッチを選ぶならどちらか。ボクが選ぶなら能活に。木谷は次点。後半ゴール裏から見ると、胃のあたりがキュッと締めつけられるような場面も、相当余裕を持って対応してたように思えたのはさすがだ、と。これが100試合以上も代表のゴールを守ってくれた背中なんだと実感した次第。木谷も危ない場面を「あ、そこにも木谷。」的な守備でカバーしてくれてた。彼らが、今季2度目の無失点試合の大きな要因。攻撃の方は今季初の無得点試合になったけど、「点が入ったことだけはよかった」と思った湘南戦より満足できる内容。録画を見直しても、決してロングボールだけの、いわゆる「縦ポンの試合」ではないと思う。宮沢、高地、泰輔、そして三都主の細かいパス回しやサイドチェンジ。そこに絡む右サイドの圭輔と俊。特に今季初スタメンの圭輔は攻撃のアクセントになっていたんで次節以降の楽しみが増えた。また、野垣内は左よりもこっちの方が合っているとばかりに敵サイドをえぐったり、いい感じのクロスも上げていた（クロスは中とタイミングが合わなかったのが残念）。後半のセンターライン付近から前へ出したパスなんかは、ゴール裏から見るとラインを割りそうで割らない。ホントにきれいな弧を描いたパスで思わず見とれてしまった。いつのまに、あんな器用なことができるようになったんだろう（笑）。ああ、それから三都主のサイドチェンジ。ほれぼれする。違うよ、やっぱり。なんで、コレで勝てなかったんだろう？でも、こういうスコアレスドローなら悪くない。監督のコメントにも納得です。冒頭に書いたように、またしても花も実もなかったけれども、この内容が続けられれば来季こそはニンスタに得点の花が咲き、勝ち点3という実を収穫することが出来る。とはいえ、来季の話は来季にすること。次節のホーム・福岡戦ではこの内容に結果を上乗せしてください。（ぐん）

●実に不本意ではあるのだけれど、“呪われた地”あるいは“魔境・ニンスタ”とでも呼びたくなる…そんな気分の愛媛戦だ。そもそも通算成績でも1勝10分4敗と引き分けが圧倒的に多いんだけど、2011年から5試合連続ドロー、そしてアウェイ・ニンスタでは2008年のJ昇格から6試合、FC岐阜は『1点もゴールを獲っていない』という目を背けたいなる事実。しかし、今年のチームの攻撃力なら、その呪縛を打破って初勝利を挙げることが出来る…って思ってたんだけどなあ…（溜息）。

試合序盤、上手くボールを奪えて回せてるのは岐阜の方だったと思う。ただ、それで油断したのか分からないけど、「コンビネーションで相手を崩して決定機を作る」ことを意識しすぎて単にボールを回しているだけの場面が多かったように見えた。愛媛側はそれに気付いて「最後さえ崩されなければ良い」って姿勢で守ってて、ほとんど決定機と思える場面は作れなかった。数撃ちや良いつてもものでは無いけど、34分の泰輔のミドルが初シュートだっていうんだから、もっと強引にでもシュートを撃って、跳ね返りを狙うような姿勢が欲しかったと思う。

ただ後で知ったことだけど、2017年愛媛国体のために改修されたニンスタ、「すてく芝が青いな…」って感じたんだけど、かなり芝が深い（＝ボールが転がりにくい）状態だったらしい。それで両チームとも何となくボール回しがゆっくりだったのね…（苦笑）。

後半も序盤は岐阜が押し込んでいた。枠の外に掻き出されてしまったけれど、47分と54分の#9ナザリトの強烈なヘッド、あれが決まっていたら…（溜息）。そしてチャンスの後にはピンチありで、徐々に愛媛に押し込まれる時間が増えてしまう。72分と74分に決定的なシュートを撃たれてしまったが、流石は“炎の守護神”#22川口能活。片手で弾き出した後に吼える姿は、ホント凄かった。

残念ながら、今回のニンスタでも無得点、ドローに終わってしまったけれど、収穫がなかった訳ではない。負傷した#16スティッペに代わり初スタメンとなった#27太田圭輔は活躍してくれたし、#17野垣内の右SB起用（かなり久しぶりじゃないかな？）も機能していた（というか、左SBの時より良かったような…（笑））。それに、アウェイで相手を無失点に押さえ、貴重な勝ち点1を持ち帰ってくることもできた。後は…試合開始前に降った大雨が止んでくれたこと、かな（笑）。いやアウェイの雨降りは（帰りが大変になるから）ホーム戦よりキツイですよホント…。

しかし、アウェイだから0-0でもまだ良いけれど、ホームでは必ずゴールを決めて欲しいよね。この反省を糧に、次の試合では積極的にシュートを撃ってゴールを量産し、スタジアムを沸かせて欲しい。

（ささたく）

●朝からの激しい雨で出掛けのを躊躇うほどでしたが、うかいミュージアムで開催された愛媛戦のパブリックビューイング(PV)に行ってきました。

施設見学とのセットで参加されたのは、私を含めて25名ほど。太田選手、中村英之選手の二人と一緒にうかいミュージアムの施設見学。私もうかいミュージアムを見学するのはこれが初めて。まあこういう機会がないと、岐阜市民でもなかなか行く事がなかったりするのですが（苦笑）。

試合の方は鬼門ニンスタでまたしてもスコアレスドロー……。ボールポゼッションなどは明らかに上回っていたし、結構惜しい場面もあったりしたんですけどねえ……。

このパブリックビューイング、岐阜市内だけでなく県内各所で開催して、ファン層の拡大や掘り起こしにつながってほしいなと感じました。（ダブルボランチ）

